

夢に向かって

2018年度
厚木市立玉川中学校
第3学年通信
発行者：山口 しおり
11月1日(水)
-第6号-

文化発表会を終えて

玉川中学校の生徒として最後の文化発表会が終わりました。合唱コンクールでは最高学年として、どのクラスも表情豊かに、表現に工夫を凝らして歌っていました。今回は中心となった各クラスの文化委員の感想を紹介します。

3の1

●私は、文化委員どころか文化発表会も初めてだったので、分からないことだらけで不安でしたが、動画の編集などに積極的に取り組みました。クラスでは、トラブルや意見が食い違うことも多くありましたが、練習が始まると全員が真面目に取り組んで、パートリーダーたちに協力してくれました。文化発表会当日は金賞が取れず、泣いている人がほとんどでしたが、歌っているときは全員楽しめていただろうし、帰りの会の合唱スタッフからの言葉では泣いたり笑ったりで、暗いままで終わらず明るい場面もあったのが1組らしいなと思いました。そんな1組が私は大好きです！

●僕は初めて文化委員になって、何をやればいいのかも分からないような状況でした。しかしそんなとき、文化委員長が1から教えてくれて、文化発表会当日もミスなく終わることができました、クラスは初めはまとまりがなく、このままでは本番までに歌が完成するかもわからない状態でした。しかしそれでもパートリーダーと協力して歌を完成させることが出来ました。中学校最後の文化発表会をクラスのみんなで楽しむことが出来ました。

3の2

●とても楽しい思い出になりました。最後の文化発表会は、どのクラスの発表も素晴らしかったです。各クラスが一生懸命練習していた成果が表れていたのではないかと思います。私たちのクラスは、やる気のない日があったり、練習に遅れてきたりすることがありましたが、最後にはクラスが一つにまとまったなと感じました。賞をとることはできなかったけれど、悔いの残らない最高の文化発表会でした。高校でも合唱をする機会があったら、中学校でのことを思いだして取り組みたいと思います。

●今年初めて文化委員になり、委員会の仕事がしっかりできるか、最後の文化発表会でクラスをまとめられるのか心配でした。クラス合唱練習では、特別教室のセッティングや練習に必要なものを準備することが大変でした。賞は取れなかったけれど、リハーサルや練習の中で弱いと言われていたソプラノ・アルトも、体を使っていない、表情が暗いといわれたところも、本番の後にはたくさんの先生に褒めていただいて嬉しかったです。委員会としての本番の仕事も最後は褒めていただいたので、達成感を感じました。





3の3

●文化委員は今年で3年目でしたが、「慣れ」はありませんでした。文化発表会に向けて動き始めてから当日を迎えるまでの毎日はとても忙しかったですが、とても楽しかったです。3組は穏やかなクラスで、練習もそのまま穏やかに進むと思っていましたが、それは難しかったようで、山あり谷ありの練習期間になりました。そんな中で私が文化委員として最後まで頑張れたのは、毎日少しずつ完成に近づいていく「心の瞳」があったからです。最後に金賞をとってクラスにトロフィーを飾れることが本当に嬉しく思っています。3組のみんなのおかげです。本当にありがとう！

●最後の文化発表会、皆さんにとって良いものになったでしょうか。僕は二年間文化委員を務めてきましたが、金賞を取ったことはありませんでした。今年は練習を始めたとき、あまり協力的ではなかった人が多かったのですが、合唱スタッフの呼びかけで最終的にみんな協力的になり、金賞を取ることができました。協力してくれた人、合唱スタッフの人にはとても感謝しています。ありがとうございました。

3の4

●3年4組は、自分たちで次に何をすればいいかを考え、担任の先生の力をあまり借りずにできたことが一番の収穫だったと思います。時にはクラスでもめたり、やる気がなくなったりしたこともありましたが、ですが、指揮者や伴奏者やパートリーダーなどの合唱スタッフが工夫した練習方法を考えてくれていたから、最終的には銀賞を取れたのだと思います。クラスのみんなに感謝したいです。

●私たちのクラスは、初めから曲が難しいことを知った上で「二十億光年の孤独」を選びました。4組はなんとか学年リハーサルまでに一曲通して歌えるまでになりましたが、その時点では最下位のように思っていました。この結果からやる気を出したのがクラスのみなでした。そこからどんどん成長していき、1週間もないうちに銀賞をとれるまでになりました。銀賞は、みんなが必死に努力をしたことが実を結んだ何よりの証拠だと思います。

